

第63回「前島密賞」受賞

ネットワーク部の橋本 明は、「ITU-Rを通じた地上無線通信システムの国際標準化に関する貢献」、無線アクセス開発部の河原 敏朗、ネットワーク部の古川 憲志、移動機開発部の橋本 研司は、「FDD方式とのCA（キャリアアグリゲーション）を実現した3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化」への功績が認められ、2018年4月10日に公益財団法人通信文化協会より第63回「前島密賞」を受賞しました。

前島密賞とは、通信事業の創始者「前島 密」氏の功績を記念し、情報通信および放送の進歩発展に著しい功績があった者に、公益財団法人通信文化協会より授与されるものです。ドコモは、昨年の「効果的なLTE-Advancedの展開を実現する高度化C-RANの実用化」に続いての連続の受賞となりました。

「ITU-Rを通じた地上無線通信システムの国際標準化に関する貢献」により受賞した橋本は、1980年以来、ITU無通信部門（ITU-R：International Telecommunication Union-Radio communication sector）会合へ日本代表として参加し、無線通信分野における国際標準化の第一線にて活躍するとともに、多数の議長職を務め、我が国の国際競争力の向上に大きく貢献しました。2007年にはITU-Rで最大のグループとなる第5研究委員会が設立されると初代議長に選任され、LTE/LTE-Advancedに代表される第4世代移動通信システム（4G）の無線インターフェー

スの詳細仕様のITU-R勧告採択を実現することで、携帯電話システムのさらなる高度化を主導し、発展途上国を含む世界中の人々の生活の利便性向上に貢献しました。特に、2007年に行われた世界無線通信会議（WRC（World Radiocommunication Conference）-07）では、世界の周波数分配を決める重要なCommittee5の議長として采配し、各国の意見を纏めた功績は大きく、今回の受賞へと繋がりました。

また、「FDD方式とのCA（キャリアアグリゲーション）を実現した3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化」により受賞した河原、古川、橋本は、新規に割り当てられた3.5GHz TDD（Time Division Duplex）バンドを効率的に導入・展開することを目的に、既存のFDD（Frequency Division Duplex）バンドと高度な連携を可能とするTDD-FDD CAの標準化を実現し、3.5GHz TDD方式とFDD方式のCAによる日本初のサービスを実用化しました。さらに、基地局の無線ベースバンド部と無線部の間において、光デジタル信号を分配するフロントホール分配装置を実用化することで、CAによる高速化に加え、通信が混雑するエリアへのスモールセルの配置による効果的な大容量化を可能とし、モバイルネットワークにおけるリッチコンテンツの利用促進など、新たな市場の拡大に貢献した功績が認められ、今回の受賞となりました。

